

平成17年度事務事業評価表

担当	建設部	土木港湾課	内線等	2253
----	-----	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	急傾斜地崩壊対策負担金事業（堀切）				
根拠法令等	急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律23条		A法令	B条例	C規則	Dその他	Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
健康で安心して暮らせるまちづくり	防災

②事務事業の内容

対象（受益者）	西浦町堀切地区急傾斜地危険区域での生活者に対し
手 段	愛知県が実施する事業に対し、負担金を支出することにより
想定する成果	生命・財産を守れるように図る。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
市の負担金	1,712千円	3,200千円	2,000千円
県の事業費	17,120千円	32,000千円	20,000千円
県の主な事業内容	重力式待受擁壁 L= 266.6m H = 0.5 ～ 6.5 m	重力式待受擁壁 L= 266.6m H = 0.5 ～ 6.5 m	重力式待受擁壁 L= 266.6m H = 0.5 ～ 6.5 m

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	事業進捗率	—
成果指標の説明	累積実績負担金／総負担金×100	—

⑤事業の進捗状況（ 一般会計 ）（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	100.0%
	実績	80.4%	92.5%	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	1,712	3,200	2,000
	人件費	2,411	2,413	2,387
	(人数)	0.3	0.3	0.3
	合計	4,123	5,613	4,387
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	4,123	5,613	4,387

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	2	2	愛知県の事業であり当初は17年度までの計画であったが、18年度で完了する予定である。
経済効率性	2	2	投入された予算にほぼ見合った成果をあげている
事務効率性	3	2	投入された人員にほぼ見合った成果をあげている
必要性	3	2	県事業に伴う、市町村負担率により負担金を支払っている。
小計	10 / 12 満点中	8 / 12 満点中	
市民参加度	2	2	地域住民の要望により事業を実施した。
合計	12 / 15 満点中	10 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	B	県の事業であり、今後も事業の推進を強く要望する必要がある。
------	---	---	-------------------------------

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県に対し、事業の推進を要望した。 ・ 現在の愛知県の計画は15年度から18年度までを予定しており、3年間の総事業費は76,380千円（負担額7,638千円）で実施してきた。 	

⑧今後改善すべき点

<ul style="list-style-type: none"> ・ 急傾斜地崩壊対策事業は、区域指定されてから長い年月を要するため、早期完了を望む。 ・ 愛知県の事業の進捗状況を把握し、危険度に関する優先順位を見極める必要がある。 ・ 現在の堀切地区は平成18年度途中で終了し、引き続き西浦町山崎地区の事業を予定している。

⑨平成19年度予算に反映する項目

--

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成17年度事務事業評価表

担当	建設部	土木港湾課	内線等	2253
事業コード		事務事業名	尺地川河川改良費負担金事業（連続立体交差部）	
根拠法令等	河川法100条		A法令	B条例 C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
快適でやすらぎのあるまちづくり	河川・排水路

②事務事業の内容

対象（受益者）	尺地川河川流域生活者に対し
手 段	愛知県が実施する連続立体交差事業に対し、負担金を支出することにより
想定する成果	連続立体交差事業の進捗・計画に合わせ河川改修が行われ安全で快適なまちとなる。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
市の負担金	30,000千円	7,000千円	7,000千円
事業内容	JR下り本線高架切替え工事	JR上り本線高架切替え工事	浜田橋架替・護岸築造

④成果指標

成果指標名	①	②
成果指標名	事業進捗率	—
成果指標の説明	累積実績負担金／総負担金×100	—

⑤事業の進捗状況（一般会計）（千円）

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	99.3%
	実績	98.0%	98.6%	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	—	—	—
事業費	事業費	30,000	7,000	7,000
	人件費	1,607	1,609	1,591
	(人数)	0.2	0.2	0.2
	合計	31,607	8,609	8,591
財源内訳	国			
	県			
	市債			
	その他			
	一般財源	31,607	8,609	8,591

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	3	3	目標どおり進捗している。
経済効率性	3	3	投入された予算に十分見合った成果をあげている。
事務効率性	3	3	投入された人員に十分見合った成果をあげている。
必要性	3	3	市が実施すべき事業である。
小計	12 / 12 満点中	12 / 12 満点中	
市民参加度	0	0	鉄道立体交差事業への工事負担金につき市民の参加なし。
合計	12 / 15 満点中	12 / 15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	A	現在の事業の進め方で十分効果があがっている。
------	---	---	------------------------

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
平成4年度から総事業費（負担金）1,131,300千円で実施し、負担金の支払いは17年度で終了の予定であったが、高架化に伴う環境対策の地元調整に日時を要した。これに伴い側道及び交差道路等工事が遅れたため、2年間の延長となり17年度から19年度までに変更することになった。	

⑧今後改善すべき点

平成19年度までに全事業を終了する予定である。

⑨平成19年度予算に反映する項目

平成19年度が最終年度となる。負担金額 8,300千円

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

平成17年度事務事業評価表

担当	建設部	土木港湾課	内線等	2238
----	-----	-------	-----	------

事業コード		事務事業名	河川浚渫整備事業		
根拠法令等	河川法100条		A法令	B条例	C規則 Dその他 Eなし

①総合計画での位置付け

基本目標	施策名
快適でやすらぎのあるまちづくり	河川・排水路

②事務事業の内容

対象(受益者)	河川流域生活者に対し
手 段	河川の浚渫整備することにより
想定する成果	河川の流下能力を維持し水害防止を図る。

③事業の概要

項 目	平成16年度実績	平成17年度実績	平成18年度計画
浚渫延長	1,651m	0m	—
浚渫累計延長	6,276m	主に現地調査を実施	—
浚渫計画延長	1,200m	2,000m	—
浚渫計画総延長	9,130m		—

④成果指標

成果指標名	①	②
	整備率	年度進捗率
成果指標の説明	累積延長／計画総延長×100	実績延長／計画延長×100

⑤事業の進捗状況 (一般会計) (千円)

		平成16年度決算	平成17年度決算	平成18年度予算
成果指標 ①	計画	—	—	—
	実績	68.7%	68.7%	—
成果指標 ②	計画	—	—	—
	実績	137.6%	0.0%	—
事業費	事業費	11,183	0	—
	人件費	1,607	1,609	—
	(人数)	0.2	0.2	—
	合計	12,790	1,609	—
財源内訳	国			—
	県			—
	市債			—
	その他			—
	一般財源	12,790	1,609	—

⑥事務事業内容の評価

項目	課内評価	部長評価	評価の説明（問題点）
達成度	1	1	防潮樋門付近に堆積した土砂の除去工事を予定していたが、想定外の降雨により浚渫工事が不要となった。
経済効率性	1	1	投入された予算にあまり見合った成果をあげていない。
事務効率性	1	1	投入された人員にあまり見合った成果をあげていない。
必要性	3	3	河川管理者として市が実施すべき事業である。
小計	6 /12 満点中	6 /12 満点中	
市民参加度	0	0	市民参加はなし。要望あり。
合計	6 /15 満点中	6 /15 満点中	

※達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	A	A	平成17年度は河口付近に堆積した土砂が移動し浚渫は未執行。市民の参加はないが、河川の維持管理においても災害を未然に防ぐためにも市が実施すべき事業で年度投資額に限界はあるが、現在の事業の進め方で十分効果があがっている。
------	---	---	--

※総合評価は、A～Dまでの4段階評価

⑦これまでに実施した改善点

改善等事項	経費の縮減額
緊急度の高い河川から実施した。直営による測量・設計であり経費縮減に努めた。	

⑧今後改善すべき点

河川浚渫5カ年計画は平成17年度で終了した。平成18年度で新浚渫計画を作成し19年度から実施する。近年河川内において蜃の育成を図っているため浚渫箇所の調整が必要。

⑨平成19年度予算に反映する項目

河川浚渫計画に基づき計画的に実施する。

⑩今後の方向性

拡大、充実 ・ 見直し、縮小 ・ 現状維持 ・ 検討中

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】